

気づき、そして、声かけを!!

保護者、地域の皆様へ、そして先生方へ

もうすぐ夏休みが終わり、2学期が始まるうとしていますが、休み明けの子どもの心理面について危惧する声も少なくありません。

さて、緊急事態宣言が発出された後も、コロナウイルスの感染が猛威を振るっている状況を鑑み、2学期のスタートを分散登校等に変更することとしました。

長引くコロナ禍により、子どもたちはストレスをため、悩み、不安を抱えていると感じます。

「コロナウイルスに感染したらどうしよう」「学校が始まってコロナは大丈夫だろうか」や「また、分散登校か」「何も、できなくなるのでは」など、不安は募るばかりではないかと。

また、子どもの心理状況を把握するアンケート結果からも、「無理をして頑張ってしまう」「最近、イライラしたり、怒りっぽくなったりする」等、自分の気持ちをうまくコントロールできない子どもが増えていることが伺えます。

子どもは、私たち大人が思っている以上に一人で悩みを抱え、苦しんでいることと推察します。

今までと違う日々を過ごす中で、私たち大人が、一人ひとりの子どもの小さな変化に気づき、温かなことばかけをすることで、子どもの心の安定を図ることができ、気持ちが救われることもあると思います。

励ましのことばより、温かなことばかけを待っているのではないのでしょうか。

保護者の皆様には、普段通りの挨拶「おはよう」や、「今日も暑くなりそうだから、水筒を用意してあるよ」など、日常の会話からの声かけを。

地域の皆様には、「おはよう」などの挨拶や「今日は学校で何をするのかな」など、さりげない声かけを。

先生方にも、「おはよう」などの挨拶、そして、「頑張って来たね」ではなく「来てくれてありがとう」や「今日は、まず〇〇〇をしようと思うけど、どう？」など、待っていたことをことばで表してください。

子どもの小さな変化に気づいたら声をかけてください。

そして、情報を共有し、繋ぐことが一番重要なことと思います。躊躇なく学校や関係機関への連絡をお願いします。

子どもたちが安心して自分なりの居場所を持てるよう、私たち大人が連携をして見守っていきたくと存じます。

流山市教育長 田中 弘美